

広報

もり 中部の森林

写真：「タカトウコヒガンザクラ」(南信署庁舎 見頃は3月末～4月上旬)

私の森語り「樹に逢いに」
写真家 高橋敬市

特集

- ・中部の森林 林業従事者写真コンテスト受賞作品発表
- ・令和4年度治山・林道工事コンクール表彰式

各地からの便り

- ・北陸唯一のCLT(直交集成板)の製造工場とCLT建築物を見学
- ・山地災害調査アプリ研修(キャラバン)の実施 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局

国民の森林・国有林



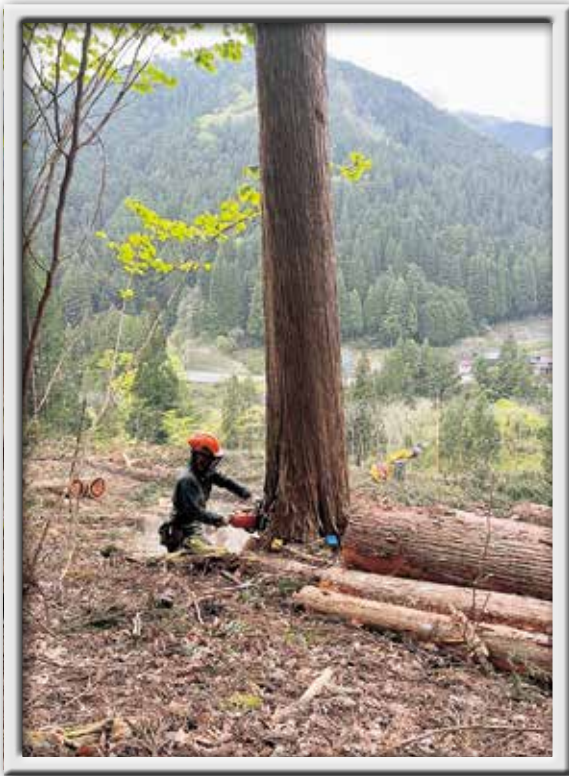
2023/No.228

中部の森林
林業従事者写真コンテスト

普段は人目に触れない、人里離れた場所で安全第一に頑張っている林業従事者の姿や林業の現場を広く知っていただくために開催した本コンテストの審査が先月七日に行われました。

一二〇点を超える応募作品は、約七十名による事前投票の得票数が多かった作品を中心に審査員の方々に審査していただきました。受賞作品を発表いたします。

○最優秀賞(1点)



「ヒノキ100年、僕21年」
西尾 魁人 (有限会社大原林産)

○優秀賞(5点)



「さて、どうする・・・」
田中 忠 (北信州森林組合)



「造材日和」
中村 真理子 (有限会社北原土木)



「朝の準備」
野間 謙治 (南佐久南部森林組合)



「晩秋の境内にて、御神木の伐倒」
牛丸 紘典 (飛騨高山森林組合)



「真剣勝負」4月に他県の普通高校から就職してくれた新人さんの伐倒
井端 直子 (飛騨市森林組合)

○入選(9点)



「休憩ちょっといっぴく」
今井 泰 (有限会社松橋林工)



「二一親方、造材の儀」
夏目 孝博 (豊根森林組合)



「林業楽しい!」
岡田 隆 (有限会社大原林産)



「芸術的なハイ積みの技術、トラック運材で運ばれる僅かな間しか見ることができない、素材が有機的かつ緻密に積み上げられることでみせる、木口の織りなす模様が美しい」
谷口 直弘 (有限会社大原林産)



「立山山麓に集う山人(やまびと)たち」
松本 稔 (立山山麓森林組合)



「ロックオン」
下島 仁 (有限会社ヤマカ木材)



「三ツ緒切りの練習」
日下部 雄一 (付知土建株式会社)



「登山道整備ボランティア」
大西 理恵 (有限会社大原林産)



「午後もハードだ充電中」
松尾 雅子
(一般社団法人
日本森林技術協会長野事務所)

審査員のコメント

現場の方々の息づかいだとか、仕事だとかが伝わる写真が多かった。また、若い方や都市部の方がこのような写真に触れて、林業も仕事の一つだと認識してもらって、林業の応援団になったり、働くきっかけになったりするよう、そういった現場の方の雰囲気があるのである写真もありました。

一般社団法人全国林業
改良普及協会 岩淵光則

若い世代が活躍している写真が心に残り、エネルギーを感じました。私はまだ経験が浅く、本当の現場を知っているとは言えません。だからこそ、私と同じ若者世代が臨場感を感じたり、林業の魅力を感じやすい写真に惹かれました。

2023ミス日本みどりの大使
上村さや香

このコンテストは、現場で働いている林業従事者の励みになると感じています。林業の現場は機械化も進んできており、魅力ある職場となってきています。こうした取組が、若い人の雇用拡大に繋がればと思います。

長野国有林森林整備協会

酒井省三

若い人たちが明るく楽しく、また真剣に林業に取り組んでいる姿を見られたことを非常に頼もしく思っています。これからの林業への期待が膨らむとともに、今後は所得の向上等、労働条件の整備を我々関係機関が取り組み、若い人の定着、PRに努力していかねなければならぬと改めて感じています。

岐阜県森林組合連合会

神原和義

色々な写真をお寄せいただき、点数を付けるのは難しかったです。様々な見方や考え方があって、裾野を広げて多くの方に森林・林業へのご理解を深めていただくことが大切であり、今後の取組に活かしてまいります。

中部森林管理局総務企画部長

廣田祐一

中部森林管理局のHPでも公表していますので、こちらもご覧ください。



令和四年度 治山・林道工事
コンクール表彰式

【治山課・森林整備課】

三月九日、中部森林管理局において「令和四年度治山・林道工事コンクール表彰式」を行いました。

このコンクールは、国有林野の公益的機能を高度に発揮させるとともに、林業の成長産業化の推進に貢献した治山・林道工事であって、民有林の模範としてふさわしいものを表彰することにより、工事における計画、設計・施工の適正化及び技術の向上、並びに関係者の意欲高揚に資することを目的に実施しています。

審査に当たっては、森林管理署等より推薦された令和三年度の工事を対象に、昨年十月二十四日、有識者を含めた審査委員会において優良工事十六件を選出しました。

そして、林野庁長官賞三件（治山工事部門一件、林道工事部門二件）、中部森林管理局長賞十三件（治山工事部門九件、林道工事部門四件）の工事の受賞が決定しました。

また、林野庁長官賞を受賞した工事の主任技術者、現場代理人及び監督職員の六名の方が中部森林管理局長賞を受賞されました。

表彰式は、山崎計画保全部長から審査報告を行った後、関口局長より賞状が授与されました。

なお、林野庁長官賞の授与式は局長表彰に先立ち、二月十六日、林野庁において行われました。

今後、本コンクールの趣旨に則って関係者間で技術の研鑽、創意工夫等を行っていただき、より一層優良で模範となる工事を実施いただくことを期待しています。



川上（池ノ又谷2）復旧治山工事
施工者 西濃建設株式会社



藪原林道災害復旧工事
施工者 木曾土建工業株式会社



白ヶ久保林道災害復旧工事
施工者 付知土建株式会社

林野庁長官賞受賞工事

記念撮影・木製賞状



受賞者と関係者全員による記念撮影



受賞者に贈られる木製賞状（局長賞）

治山・林道工事コンクール賞状授与者名簿

1. 中部森林管理局長賞(賞状授与) 治山9社 林道4社

工事別	署所名	工 事 名	会社名	役職名	代表者氏名
治山	富山	スゴ谷下流復旧治山工事	新栄建設(株)	代表取締役社長	高平 公輔
治山	中信	ウド川復旧治山工事	(株)牛木組	代表取締役	牛木 善彦
治山	中信	唐松沢2復旧治山工事	(株)傳刀組	代表取締役	傳刀 宗久
治山	東信	濁川3地域防災対策総合治山工事	柳沢建設(株)	代表取締役	柳沢 洋一
治山	南信	手良沢山2復旧治山工事	宮下建設(株)	代表取締役	宮下 金俊
治山	木曾	倉本湯川復旧治山工事	奥田工業(株)	代表取締役	奥田 和彦
治山	飛騨	平湯(安房谷)水源地域整備工事	加藤土木(株)	取締役社長	加藤 勝
治山	東濃	鎗ヶ入谷(本流)復旧治山工事	(有)共和土木	代表取締役	堀 豊次
治山	愛知	豊橋(二川)予防治山工事	今泉建設(株)	代表取締役	今泉 光俊
林道	中信	奈川黒川(奈川)林道災害復旧工事	川瀬建設(株)	代表取締役	川瀬 雄一
林道	東信	地蔵峠付属路新設ほか工事	博友興業(株)	代表取締役	外川 将志
林道	飛騨	小ヌクイ大楢林業専用道新設工事	(株)技研ユニティ	代表取締役	大附 勝也
林道	東濃	白川付知林道ほか1改良工事	田口土木(株)	代表取締役	田口 宗甫

2. 中部森林管理局長賞(賞状授与) (林野庁長官賞受賞者の主任技術者等) 6名

工事別	署所名	工 事 名	現場代理人	主任技術者	監督職員
治山	岐阜	川上(池ノ又谷2)復旧治山工事	小森 健司	小森 健司	岡倉 洋平
林道	木曾	数原林道災害復旧工事	寺平 尚行	寺平 尚行	吉原 浩司
林道	東濃	臼ヶケ保林道災害復旧工事	輿 宏友	輿 宏友	城倉 恵介

現場代理人・主任技術者及び監理技術者が兼務している場合は、上位の役職者を表彰します。

3. 林野庁長官賞 3社 (2月16日林野庁にて表彰済み)

工事別	署所名	工 事 名	会社名	役職名	代表者氏名
治山	岐阜	川上(池ノ又谷2)復旧治山工事	西濃建設(株)	代表取締役社長	宗宮 郷
林道	木曾	数原林道災害復旧工事	木曾土建工業(株)	代表取締役	青木 孝尚
林道	東濃	臼ヶケ保林道災害復旧工事	付知土建(株)	代表取締役	三尾 秀和



施工事例の説明を受ける富山署と石川署の職員

この見学会には、当署の職員十名と近畿中国森林管理局石川森林管理署の職員八名が参加しました。

一月十七日、CLTの見識を深めるため、石川県能美市にある株式会社中東の施設を見学させていただきました。

【富山森林管理署】
 北陸唯一のCLT（直交集成板）の製造工場とCLT建築物を見学



CLTの製造過程を見学

株式会社中東は、北陸三県（富山・石川・福井）で唯一のCLT製造工場であり、国内でJAS認証を受けている八つの工場の一つでもあります。CLTは、繊維方向が同じ板を積み重ねて接着した集成材とは異なり、板の繊維方向が直交するよう積み重ねて接着されている構造材です。

まずは、施設内にてCLTや集成材を用いた国内外の大型建築物の施工事例などについて説明をし

ていただいた後、工場に移動し、製品の製造過程を見学しました。CLTや集成材は、大断面の構造が特徴で構造性能と耐火性能に優れ、公共建築物や高層建築物にも多く利用されており、注目されています。

森林管理局の職員は、木を伐採する現場を見る機会があります。が、伐採・搬出された木材がどのような形で製品になるのか、その過程を見る機会は少なく、普段ではなかなか見られない製造工程を見学し、木材加工や流通の知識を深めることができました。

午後からは、富山県南砺市にある島田木材株式会社の島田社長の案内で、令和四年四月に完成したウイスキー熟成庫を見学させていただきました。

一般的にウイスキーの熟成庫は、鉄骨スレート造とのことですが、全国でも珍しい木造であり、CLTを壁材として使用している熟成庫は全国でも例がないとのことでした。

また、関連して国産材のミズナラを使用してウイスキー樽を製



ウイスキー熟成庫の見学

造、補修している工程なども見学させていただきました。広葉樹材の木材活用について学ぶことができました。

木材は、加工がやすく環境負荷の少ない材料であり、温度や湿度を一定に保つなどの多機能な一面を持っています。今後も機会を捉えて、木材等についての見識を深めてまいりたいと考えています。

令和四年度 山地災害調査 アプリ研修(キャラバン)の実施

【治山課】

「山地災害調査アプリ(以下、「アプリ」という。)」は、GIS(地理情報システム)により正確な災害箇所的位置を把握することで、「被害状況の迅速な把握(情報収集)」や「現地調査・応急対策の実施に向けた検討」などを目的に、令和二年度に林野庁業務課において開発されたものです。

アプリの主な機能は、ヘリコプターによる被害調査の軌路の取得や、撮影方向・位置情報を付した写真撮影ができる「ヘリ調査アプリ」、山腹崩壊や荒廃溪流の状況を整理する「山地災害調査カルテ」、治山施設の被害状況を整理する「治山施設点検カルテ」をはじめ、今年度から林道事業にも対応できるように、新たに「林道災害調査カルテ」、「林道施設点検カルテ」が追加されました。

局治山課では、アプリの機能や操作方法を職員に習得してもらうため、令和二年度からWEB講習

を行ってきましたが、新たに林道事業のカルテも加わったため、昨年十月から本年一月にかけて、局森林整備課と合同で各署等へのキャラバンによる研修を実施しました。

研修では、実務の流れとして、アプリを導入したタブレットやスマートフォンにより現地調査を実施し、被害状況写真やカルテ等をデータ管理サーバにアップロードすることで、即時に事務室でのデータ確認や編集、出力が可能となることから、効率よく作業を行うことができること、また、アップロードしたデータは、林野庁業務課や局でも閲覧できるため、災害時に迅速な情報共有が可能であることを説明し、実際にタブレットやスマートフォンを使用しながら、操作方法や一連の作業の流れ等について理解・習得してもらいました。

参加者からは、キャラバンによる研修やアプリの機能等については好評を得ましたが「タブレットでは大きすぎるので現場では扱いにくい」などの意見も出されました。

引き続き、山地災害発生時におけるアプリの適切かつ有効な使用に向け、局署等が連携した取組を進め、初動対応の強化や地域の安全・安心の確保に貢献してまいります。



飛騨森林管理署での研修風景



愛知森林管理事務所での研修風景

白銀の現場! インターンシップ春期を実施!



国有林内にて、ハーベスタによる伐採現場を見学

中部森林管理局の各課で 国有林の仕事を経験

【総務課ほか】

二月一日から三日まで、当局において、東北大学、東京環境工科専門学校の学生二名を対象にインターンシップを実施しました。

本取組は、当局の実際の行政実務に接することにより、学生の学習意欲を喚起し、高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

一日目は、当局の概要説明、安全指導等を受けた後に技術普及課からニホンジカ対策、罫猟の説明と設置体験。治山課では、山地災害調査アプリ等の体験を行いました。

二日目は、計画課が担当し、現地までスノーシュー(雪の上を歩かんじき)を履いて移動し、ハーベスタによる伐採現場の見学、ドローンを操作しながらの森林調査、ドローンで撮影したデータをオルソ画像化したデータ確認等を行いました。

三日目は、森林整備課から林道事業の役割などを説明。資源活用課からは、木材の生産・流通など資源活用の概要の説明や木材市場の見学。保全課からは、国有林の境界の保全、測量機器の操作体験を行いました。

また、新規採用者三名との意見交換では、実際の仕事への向き合い方、休日の過ごし方、就活時の苦労話、面接対策など楽しくもリアルな体験談に耳を傾けていました。

学生からは、「初歩的質問や見当違いな質問もたくさんしてしまいましたでしたが、とても丁寧にわかりやすくご説明いただき理解を深めることができました」「森林・林業はあまり身近な存在ではなかったが、実際の現場での実習などを通じて、将来なんらかの形で森林に関わっていきたいという思いを強く持ちました」との感想が寄せられました。

最後に、短い期間ではありませんでしたが、職業選択の参考としていただき、森林・林業関係への就業に結び付くことを期待しています。



木材市場の見学



国有林内で山地災害調査アプリを操作



シカワナ設置体験



調査カルテを作成



スノーシューを履いて現地まで移動！
ドローンでの森林調査体験



測量機器（コンパス）で、測定実習



若手の職員との意見交換

もりもり上伊那山の感謝祭

【南信森林管理署】

二月十四日、伊那市「いなつせ」において上伊那地域振興局等が主催する「もりもり上伊那山の感謝祭」が開催されました。

会場のホール入口に展示コーナーが設けられ、令和四年度上伊那那林業関係コンクールに入選した小・中学生のポスターや、上伊那地域で活躍する林業関係団体によるパネル等の展示がありました。

当署においても国有林の取組や森林の役割等のパネルを展示し、パンフレットを配るなど、国有林野事業のPRを行いました。

感謝祭では、上伊那地域林業関係功労者表彰、長野県ふるさとの森林づくり賞の表彰式が行われた後、林材ジャーナリストの赤堀楠雄氏から、「いま、地域に必要なことは何か山づくり・人づくり・地域づくりを考える」と題して講演が行われました。

木曾山林（現木曾青峰）高校初代校長が説いた「林業は観察の学問



来場者のことを考えて若手職員が配置したパネル展示

である」の解説や「山づくりは、地域ごとに、現場ごとに答えがある」等の話がありました。また、羊の飼育を通して、地域の人間関係を構築後に森林の団地化を行った取組事例の紹介は、発案者の柔軟な発想が印象的でした。

当署では、これからも関係者等と連携し、地域の森林・林業の発展に寄与できればと考えています。



勉強会の様子

長野県木曾地区で
ニホンジカ獣害対策勉強会を開催



「木曾森林管理署・木曾森林管理署南木曾支署・木曾森林ふれあい推進センター」

二月二十日、長野県の木曾地域振興局講堂において「令和四年度木曾地区ニホンジカ獣害対策勉強会」を開催し、県・町村・木曾猟友会・国有林の各機関から想定を

上回る約八十名に参加していただきました。

ニホンジカ(以下シカという)の獣害は、全国の森林の約二割で確認されており、令和二年度の被害面積は約四、二〇〇^{ヘクタール}、野生鳥獣による森林被害の約七割を占め、生息域も数十年の長期にわたって拡大し、被害は人工林における植林木の枝葉食害や剥皮被害のほか、森林植生への食害による悪影響(立木の枯損、林内下層植生の消失及び裸地化による表土の流出など)と多岐にわたります。

長野県は、長野県第二種特定鳥獣管理計画(第五期ニホンジカ管理)を策定して、増えすぎたシカを適正な生息密度に維持することを目的に、県内を八地区に区分して諸対策を実施しています。

木曾地区では、シカ生息域の拡大が確認されていることから、深刻な被害を受ける前に、置かれている現状と今後の対処方法等を地域の関係者で共有するため、木曾地域振興局林務課とともに勉強会

を企画しました。

勉強会では、木曾地域振興局林務課長のあいさつに続き、次の発表がありました。

①長野県の取組について

一般財団法人自然環境研究センターの荒木良太主席研究員より、長野県の「広域捕獲活動緊急支援事業」にて実施した、浅間山県境部での状況調査の事例として、シカの分布が急拡大している地域でのドローン赤外線カメラ等による状況調査を発表

②国有林の取組について

木曾森林ふれあい推進センターの山本通明^{やまもとみちあき}自然再生指導官より、クマの錯誤捕獲防止の実証試験やライトセンサス調査等を発表

③ニホンジカの生態と被害対策

—木曾地区の森林について—
国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所の八代田千鶴^{やちだちづる}主任研究員より、「シカの生態と生息密度から捕獲段階を区分してみると、木曾地域は低密度維持の段階であること」「雌シ



ニホンジカの生態をスライドで勉強

カは長寿で毎年出産し、年率二〇^{パーセント}で個体が増加するため、持続的捕獲は必要であること」「平地(傾斜約三十度未満)に集まるシカの習性があること」などを発表

発表は木曾地域に関連した内容で、参加者が真剣な眼差しで聞き入っていたのが印象的でした。また、木曾地域では、今の捕獲を継続しつつ、担い手育成、地域連携等が重要であることを共有できました。

最後は、木曾森林管理署長のあいさつで閉会し、今後のシカ獣害対策を進化させる充実した勉強会になりました。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【飛騨森林管理署

町方森林事務所

森林官 金 敏博



乗鞍岳の曇平駐車場と北アルプス

町方森林事務所は、岐阜県北東部の高山市丹生川町に所在し、宮川水系の支流荒城川と小八賀川の上流域に位置する乗鞍・折敷地・金山・デンガクの

四箇所の国有林、約四、七〇〇ヘクタールを管理しています。

このうち人工林は約九五〇ヘクタールの二〇割のみであり、残りは天然林及び樹林帯以外の高山帯で占めています。また、人工林の林齢は全てが二十年生以上となっており、間伐を主体とした森林整備を計画的に実施しています。

当事務所のシンボルとなっており、乗鞍岳（標高三、〇二六メートル）は中部山岳国立公園の最南端に位置し、標高二、七〇〇メートル付近までバスで到達できることから、手軽に三、〇〇〇メートル級の登山に挑戦できる山として人気があります。昨年約十万人の方が訪れました。

標高二、五〇〇メートル付近以上では、コマクサなどの高山植物やライチョウにも出会えることが

魅力ですが、この地域の環境を維持するため、地域の方々による外来植物の除去等の地道な活動も行われており、当事務所も活動を支援しています。



五色ヶ原 布引の滝

また、乗鞍岳の麓に広がる五色ヶ原と呼ばれる区域は、豊かな森林の中を数多くの溪流が流れ、滝や池、湿原などの変化に富んだ地形と相まって、四季折々の景色が楽しめます。

この区域に所在する国有林は、多様な活動の森「のりくら郷土の森」として高山市長と協定を締結し、「五色ヶ原の森案内人の会」が歩道の整備や乗鞍の自然にふれるためのガイドツ

アーを実施しており、多くの方が訪れる人気スポットとなっています。

■未来の担い手へのメッセージ
私自身、木曾ヒノキ林や北アルプス等の山岳地、それらに関わる方々から多くのことを学んできました。

国有林を後世に引き継ぐ森林づくりや地域に貢献するフィールドとして整備することは、数年単位で成果が出ることはありませんが、職場の先輩や地域の方たちと関わる中で自分の視野が広がり、見識が深まります。興味のある方は、ぜひ、この職場へお越しくください。



筆者

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「樹に逢いに」



写真家
高橋 敬市

■自己紹介

立山黒部アルペンルート^{あしくらの}の玄関口、富山県の「芦峯寺」を拠点に、富山湾の海拔〇メートルの海から北アルプスの三、〇〇〇メートルまでの自然や風土を撮影、取材を続けている写真家。

■活動内容

これまでにも県内外での写真展をはじめ、講演会、作品を写真集、雑誌、新聞、カレンダーなどに発表。自宅の一部に、写真ギャラリー「NATUR」とカフェシヨップを開設しています。ギャラリーでは



写真ギャラリーとティールーム

七五インチの大型画面を使った写真と音楽によるコラボレーションも上映しています。

二〇〇一年に出版した写真集「立山杉」を二十二年ぶりに大幅改訂し、電子出版として五月下旬に二十二世紀アート(株)から発刊する予定です。また、朝日新聞富山版に二〇一三年から「剣岳遠近」と題して十年間(三六二回)にわたって掲載し続けてきた記事を写真集として今年八月に出版予定です。

■メッセージ

これまで「水の循環」を自らのライフワークとして撮り続けてきました。

立山連峰に降り積もった雪や雨が春、雪解けとともに高い山から草原、森を抜け、滝を落とし、峡谷から河川となって富山湾に流れ、水蒸気になって天空に運ばれ雲となって雨や雪を降らせる。中でも森は海と山をつなぐ大切なエリアです。

富山湾が「豊穡の海」ともいわれるのは、森林の栄養分が海に運ばれ、多くのプランクトンが魚類を育むともいわれています。

私にとつての森とは、北アルプスの「ゆりかご」のような場所なのかもしれません。



立山の森の中にある立山杉の巨木に案内した時

そんな森で生涯忘れることができない出来事がありました。

二〇一八年六月五日、立山の美女平で撮影中、熊と突然遭遇し、頭から顔面にかけて全治三週間の重傷を負いました。幸い大事には至らず、二十一日ぶりに退院することができました。

悪いのは私の無知で、熊には非がなかったということです。

この事故を人生のよき教訓にし、また、初心に返って本業にカムバックしました。



2001年に出版した立山杉の写真集

○連絡先

〒930-1406

富山県中新川郡立山町芦峯寺51
高橋敬市写真事務所

電話：076(481)1912

✉ kt@photo-natur.com



中央アルプス固有の貴重な動植物群落

中央アルプス(駒ヶ岳)生物群集保護林

設定目的

当保護林は、将棋頭山から駒ヶ岳、空木岳、越百山へと連なる中央アルプスの稜線の伊那谷側に位置しています。氷河の影響を受けた特異な地形がみられ、そこに生育する高山植物をはじめとする希少な植物群落・森林生態系の保護・管理を行っています。

地況・林況

中央アルプスは、西の木曾谷側からも東の伊那谷側からも標高差が二、〇〇〇メートルを超える非常に急峻な山脈で、カール(圈谷)やモレーンなど様々な氷河地形がみられます。

亜高山帯にはシラビソ、コメツガ、トウヒ、ダケカンバ等の天然林が広がっており、稜線周辺はハイマツ帯や風衝草原がみられます。

また、中央アルプスのみに分布するコマウスユキソウ等の貴重な高山植物や、ベニヒカゲをはじめとする高山蝶など、希少な動植物の生息地となっています。

シリーズ

中部の保護林(第23回)

コマウスユキソウ

木曾殿越から空木岳への稜線

所在地

長野県 駒ヶ根市、
上伊那郡宮田村、上伊那郡飯島町



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

ハクサンイチゲ



※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第23回

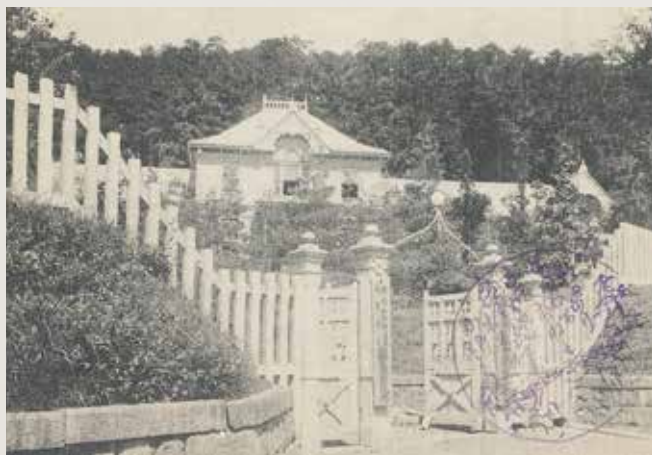
中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

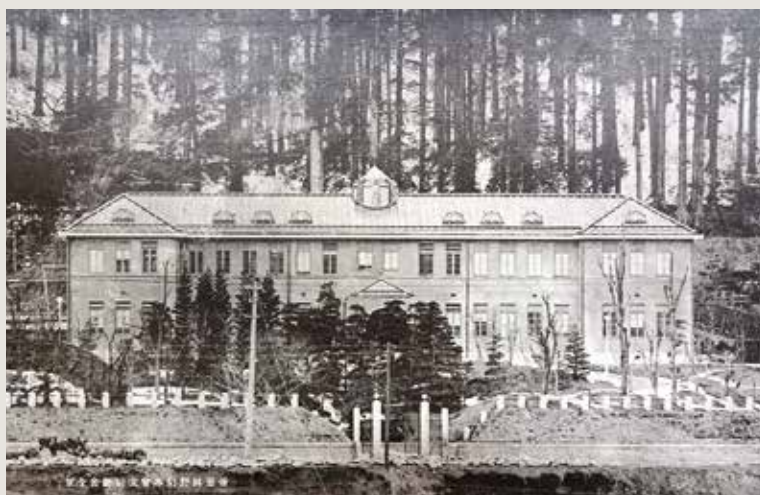
今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「帝室林野局木曾支局庁舎」

中部森林管理局の前身として長野営林局がありました。更にその前身として帝室林野局木曾支局が明治三十年代から木曾福島に設置されていました。



初代の帝室林野局木曾支局庁舎
(明治36年設置／絵はがきより)



現在も残る2代目の帝室林野局木曾支局庁舎
(昭和2年落成／絵はがきより)

戦前の木曾谷一円の御料林(後の国有林)を管理する木曾支局の庁舎は明治三十六年に建てられましたが、昭和二年の木曾福島の大火で焼失してしまつたため、現在残っているのは二代目の庁舎となります。

二代目の庁舎は戦後、昭和三十一年に現在

の長野市の庁舎に機能が移転するまでは長野営林局の本庁舎として使われました。その後、林業試験場木曾分場や福島営林署、森林技術センターの庁舎としても使われます。

平成二十年代の地元関係者の尽力と復元改修工事を経て、現在は長野県木曾町が所有する「御料館」として活用され、アール・デコ様式の洋風建築の姿を伝えています。

「写真」昭和初期頃の局内部と思われる写真



「写真」昭和二十年後半頃の写真

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。





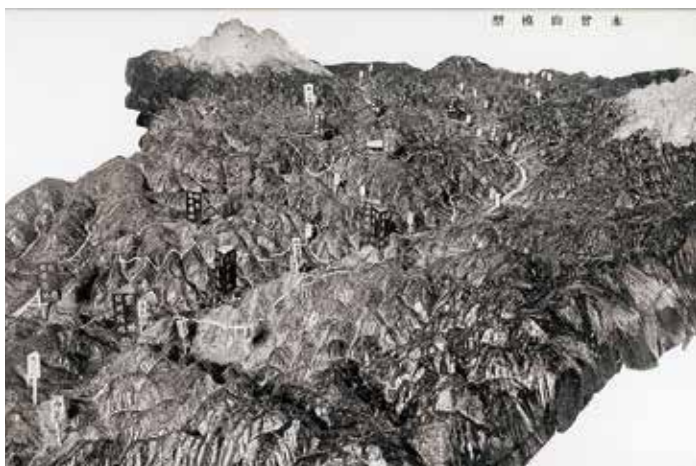
【写真】「御料館」二階に展示されている巨大な「木曽谷模型」

「木曽谷模型」が
木曽町の文化財に指定

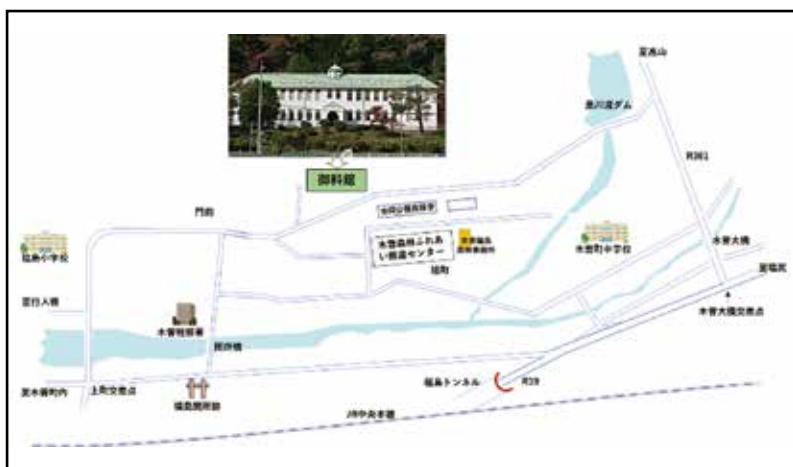
旧帝室林野局木曽支局庁舎である長野県木曽町の「御料館」には明治十年代に製作された巨大な木製ジオラマである「木曽谷模型」が展示されています。令和五年一月にこちらの模型が木曽町有形文化財に指定されました。

「木曽谷模型」は明治十四年に開催された第二回内国勸業博覧会に出品するため、帝室林野局木曽支局の更に前身である内務省山林局木曽出張所によって製作された木曾ヒノキ製の模型であり、当時の木曽地域の地理情報が詰め込まれ、また地形が彫刻によって表現された見どころの多い展示物です。

現在から一四〇年程も前に作られた「木曽谷模型」は博覧会の後、



【写真】戦前の神宮農業館の絵はがきより



明治二十四年から長く神宮(伊勢)農業館に置かれていましたが、平成三年に関係者の尽力により木曽福島に里帰りしました。

長い歴史の中で東へ西へと流転してきた巨大模型ですが、はるか昔にこれだけ精巧に木曽谷の地形を表現した模型が作られていたことには本当に驚かされます。「御料館」にお立ち寄りの際は、ぜひご覧になってください。

編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

「林業女子、頑張ってます!」「架線で運ばれる材を待つ」「ヘリ土場、初体験」「プロセッサを降りて手造材」「機械にも栄養を」「秋の日と黄昏の山々、そして自分」「先輩後輩」「山師」などなど、林業従事者写真コンテストでは、森林や林業のことをもっと知りたいと思うようなタイトルが添えられている写真がいくつもありません!

また、林業の現場から見える御嶽山の風景や足元に植えた苗木の写真など、林業従事者の姿は写っていないものの、林業現場の魅力ポイントを感じることができる写真もいただき、嬉しく思っています。

ご応募いただいた写真は、中部森林管理局のホームページにてご紹介させていただきます。と考えておりますので、もうしばらくお待ちください(^^)

ホームページの「デジタル森林紀行(デジ森)」では、いつでも森林や自然の風景、懐かしい白黒時代の写真などを見ることが出来ますので、こちらも楽しみみてください!



デジ森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。



50. 「雪のキャンパス」(北信署管内)

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

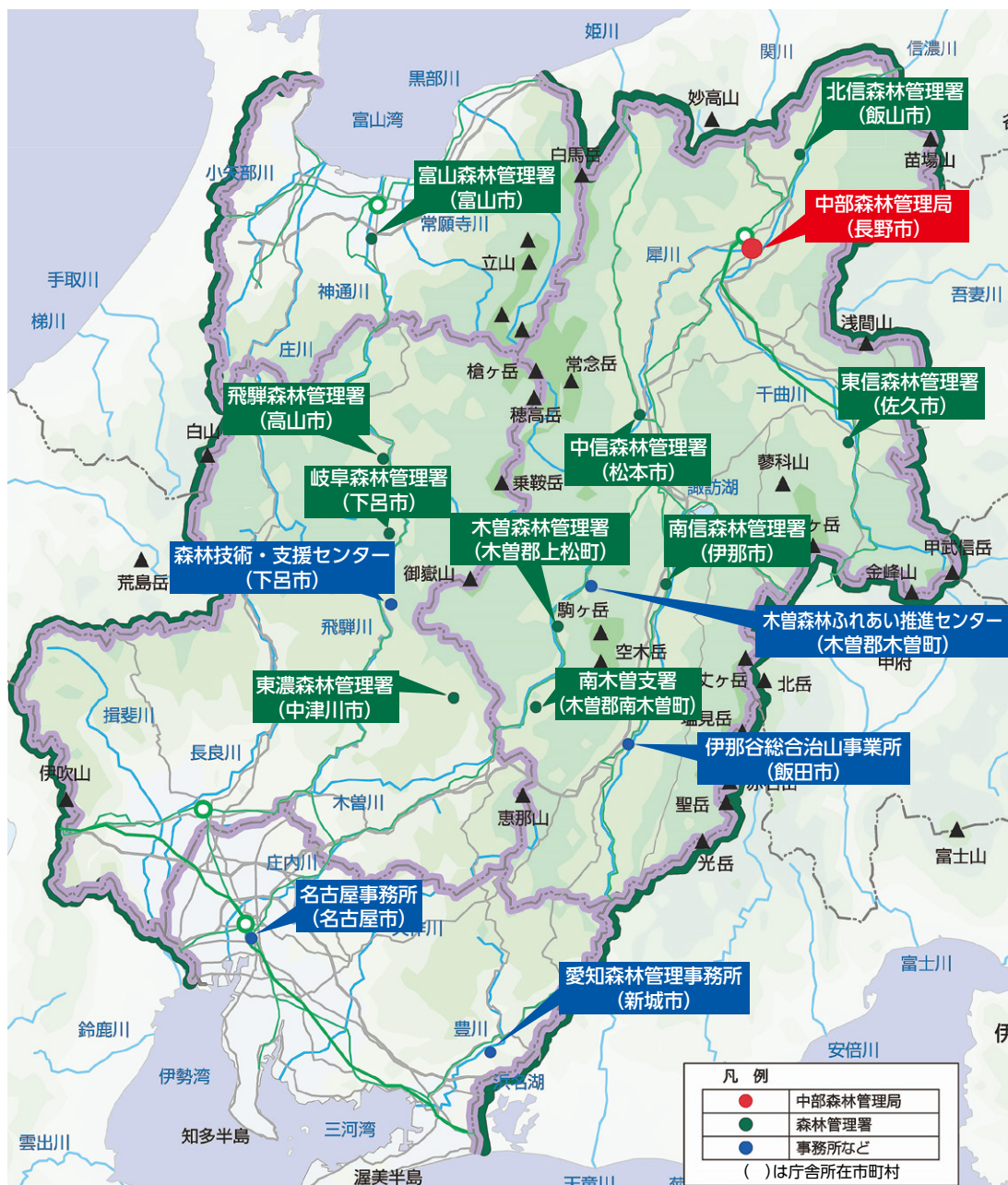


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。